

鈴鹿市議会の「政務活動費」は？

政務活動費の無茶苦茶な使い方が問題になっています。市民の方にも「鈴鹿の政務活動費はどうなっているの？大丈夫？」と、よく聞かれますので、今回は「政務活動費」について書いてみます。

鈴鹿市議会では、議員一人月5万円、年間60万円が政務活動費として交付され、会派としての支出に使われます。

私達日本共産党議員団は、3人分で年間180万円が交付されますが、平成27年度は市議会選挙後の5月からなので年間165万円で、次のような使途でした。

■平成27年度収支報告書(日本共産党)

支給額 1,650,000円
決算額 1,234,997円
残金額 415,003円(戻し)

■支出科目と金額

広報費 667,618円 広報新聞印刷費等
研修費 324,140円 研修参加費
資料購入費 191,641円 書籍購入費等
事務費 51,598円 プリンター代等

このように昨年度、日本共産党鈴鹿市議団の政務活動費の55%は、「すずか民報(市議団議会報告)」各号7万部の印刷代と5万部の新聞折り込み代に使っています。

なお、各自発行の市政だより、私の「話の種」などの印刷代は個人持ちの自己負担で、政務活動費は、あくまでも会派としての支出に使います。

また研修費は、会派として各地で開催される研修会の参加に要する経費(旅費、宿泊費、参加費)です。鈴鹿市議会では、宿泊費はビジネスホテルしか認められていません。旅費も最も安いコースで計算されます。

政務活動費は、年度初めに会派の銀行口座に振り込まれ、年度末に領収書を添えた会計帳簿を議会事務局に提出してチェックを受け、残金は返納します。議会事務局での領収書のチェックは厳しいので、鈴鹿市での不正はありません。

より詳しい各会派別の「会計帳簿」は、鈴鹿市議会ホームページで閲覧できますのでご覧ください。研修会の行き先なども書かれています。また、「領収書」のコピーなどは、市役所4階総務課の行政資料コーナーで、誰でも自由に閲覧できます。



9・19戦争法強行採決から1年「私たちは忘れない!みえ集会」で、津市在住のホンダOB大先輩に出会いました。

鈴鹿市議会ホームページを見よう

「鈴鹿市議会」で検索してください。「政務活動費」のほか、「本会議録画中継(録画映像)」「会議日程」「会議録の検索と閲覧」など、市議会の詳しい内容が記録されています。

■ブログ記事を中心に編集しています。皆様のご意見・感想をお寄せ下さい。

■日々の活動は、ホームページ、ブログ、facebookをご覧ください。

「はしづめ圭一」で検索して下さい。



発行：鈴鹿市議会議員 橋詰 圭一【日本共産党】

No.6 2016年11月

〒510-0226 鈴鹿市岸岡町2874-1
電話・FAX 059-386-8561
携帯 090 6577 3617
ホームページ [はしづめ圭一] 検索



9月議会 一般質問

図書館サービスの 向上と改革について

9月議会一般質問では、「土地開発公社の所有地について」と、「図書館サービスの向上と改革について」質問しました。

今回、図書館サービスをとりあげた理由は、本年7月発表の「鈴鹿市行財政改革アクションプラン」のなかに、「図書館業務の民間委託」という項目が入っているからです。このことを念頭に、①図書館職員の専門性について、②司書(嘱託職員)の待遇について、③地域サービス向上について、④図書館業務の民間委託検討について、⑤学校図書館について、大きく5つ質問しました。

図書館は単なる貸本業ではなく、地域の

大切な生涯学習施設であり、文化施設です。急いで業務委託をすすめるのではなく、市民参加でじっくり検討すべき課題です。質問の詳細は、私のブログや市議会HPをご覧ください。

議会から帰ってインターネットを見ると、「東洋経済ONLINE」に、「月収13万円、37歳女性を苦しめる官製貧困」というタイトルで、公営図書館の嘱託司書のインタビュー記事が大きく載っていました。

図書館司書、嘱託保育士、臨時職員など、官製貧困を、もっともっと勉強して取り上げていきたいと思えます。皆さんの声をお寄せ下さい。生の声が私の活動の源泉です。

様々な福祉団体の方々の、日々の努力の積み重ねですね。今日の笑顔が、また来年につながっていくのでしょうか。(10/8)

ふれあい広場鈴鹿

鈴鹿ハンターショッピングセンターと弁天山公園で、「ふれあい広場鈴鹿」があり、行って、観て、楽しんできました。

屋外ステージ、屋内ステージを中心に様々なイベントがあり、模擬店大広場、鈴鹿グルメコーナー、交流コーナー、どこもいっぱいの人で賑わっていました。知り合いのボランティアの方々も、スタッフとしてがんばっています。

毎年続けて30周年!すごいことです。社会福祉協議会を支えている地域の皆さん、



地域交通を考えるうえで参考になる視点

月刊誌「住民と自治」9月号が、「地域交通と交通弱者」を特集している。そのなかで、三重県地域連携部交通政策課長・富永健太郎氏の小論が光っている。

「地域交通における県の果たすべき役割～“新しい豊かさ”と住民生活における交通手段の確保～」と題する小論で、まとめにあたる最後の部分で、これからの地域公共交通を考える上で参考になるので引用・紹介します。

=====
 こうした事業を進める上でやはり課題は予算の確保です。公共交通を重視しようとする政策は、総論では共感を得られても、財政議論となると、プライオリティーが必ずしも高いとはいえない状況だからです。本来、公共交通、とりわけ地域交通は、自家用車を運転できない高齢者や子ども・若者など自由な移動を確保するための公共財に準ずる社会資本と位置づけられる必要があります。

たとえば、高齢者の外出や歩行を促し健康面でプラスになれば、医療費や介護費の

削減にもつながり、自家用車から公共交通機関に転移することで、道路の渋滞が減り、経済的損失を抑えつつ環境にも優しいという効果が見込まれます。また、地域の鉄道やバスを中心とした地域公共交通のネットワーク化によりコンパクトシティー化を進め、公共交通沿線にさまざまな施設を集約させれば、公共交通の利用者も増えます。こよのうに交通に関する施策の推進は、まちづくりや福祉、健康、教育、子育て、環境など他分野を連携させることで、総合的な交通体系を構築することが重要と考えています。

いま、「安心」、「共生」、「優しさ」の点から県が交通政策に携わる責任がとて大きくなっています。いつまでも住み続けられる地域であるために、県、市町、事業者、県民などすべての主体が地域の鉄道やバスを中心とした生活交通の必要と重要性を相互に情報共有しながら理解し、それぞれが地域における公共交通の維持・確保に向けた役割を自覚し、取り組んでいきたいとします。(以上引用)

岐阜県養老町のオンデマンドバスを見学してきました。人口3万1千人の町に、6台のワゴン車が走っています。

乗車は予約制で、乗りたい日の前日から乗りたい時間の30分前までに電話すると、239カ所ある近くの乗降場所から乗ります。運行時間は平日の午前8時30分から午後5時まで、料金は1回200円ですが、1ヶ月3000円のパスポートや各種割引があります。病院や買い物、役場などの公共施設への利用など、多くの町民の方に喜ばれているとのことでした。

養老町のオンデマンドバスを見学



駅前自転車駐車場整備して有料化案

現在、市内の駅周辺には、市の設置する自転車駐車場が27カ所(内有料が3カ所)ありますが、駐車場不足、放置自転車など様々な課題があります。

駐車場に屋根や防犯カメラ設置など、安全で快適な利用環境の確保を進めるとともに、有料化を図る計画案が出されています。

当面、乗降人数の多い、近鉄白子駅、近鉄平田町駅、近鉄鈴鹿市駅から優先的に整備する計画です。

鈴鹿市自転車駐車場整備方針(案)は12

月議会で審議される予定です。皆さんのご意見をお寄せ下さい。



委員会視察



産業建設委員会で7月25日から2泊3日で行政視察に行ってきました。

◎神戸市「航空機産業と行政のかかわりについて」 ◎加古川市「下水道事業について」 ◎広島市「観光施策・地域資源を活用した観光誘致について」、それぞれ学んできました。委員会として提言をまとめ、市長に要望していきます。また、今後の活動に活かしたいと思います。

国のカタチが投資家によって変えられるTPP

西日本の生協をはじめとする協同組合が作っている「くらしと共同の研究所」主催の「TPPの問題を考えるシンポジウム」が9月24日、京都・同志社大学内であり参加してきました。参加の動機は、元農林水産大臣・山田正彦氏の記念講演と三重短大の先生の報告が予定されていたからです。13時30分に開会し、17時までびっしりと記念講演、報告、質疑が続きました。内容は、とても書ききれません。往復の近鉄電車車内でも山田正彦氏の最新の著書「アメリカも批准できないTPP協定の内容はこうだった!」を読みました。興味ある方はぜひ読んでください。

政府はこの秋の臨時国会で、TPP条約を批准しようとしています。山田正彦氏は、穏やかな語り口で力強く、「国のカタチが変えられようとしている」「雇用や地域経済を壊し、食の安心・安全や公共サービスなどの規制を緩和させ、さらに環境、人権、自治、民主主義という価値までをも危険に

さらし、表向きは自由貿易、実際は投資家や企業にとっての新しい権利・権益を拡大して、何もかもを包み込んで格差社会のさらなる拡大へと導いていく。秘密裏に進めなければならない自由貿易協定に向けての交渉なんてありえない」と警鐘を鳴らし、TPPを批准させないために、今日の参加者ひとり一人に、「何が出来るか?出来ることをやろう!」と呼びかけました。

子育て応援宣言の町

岡山県奈義町で町会議員をしている友人宅に行ってきました。人口6500人の小さな町ですが、子育て応援の街づくりをすすめて、2014年度の出生率は2.81と全国トップという素晴らしい町です。(10/10)

